



創立70周年記念式典



感謝状をお贈りした方々



深松会長より毛利元会長に感謝状贈呈

P 県高 連 会 報

第 122 号
2020.2

編集発行

富山県高等学校PTA連合会
発行人 会長 深松 茂
富山市千歳町1-5-1
富山県教育記念館41号
TEL 076(432)2810
FAX 076(432)1501



高P連創立70周年にあたり

富山県高等学校PTA連合会
会 長 深松 茂

秋空に立山連峰が美しく映える10月29日、富山県高等学校PTA連合会創立70周年記念式典を挙行了いたしました。富山県知事石井隆一様をはじめ、多くのご来賓の皆様のご臨席を賜り、盛大に開催できましたことを心から感謝申し上げます。

本連合会は、戦後間もない昭和24年10月に「富山県高等学校PTA連絡協議会」として発足し、昭和62年に現在の名称に改め、本日に至りました。この間、本県高等学校教育の歩みと共に、その時代、その社会の持つ課題を克服するために活動を続けて参りました。これも県教育委員会をはじめ県高等学校長協会、県社会教育振興協議会からのご指導やご支援、そして、多くの先輩会員の皆様のお力によるものと、心から感謝申し上げます。この10年の間、本連合会の活動にご尽力いただきました皆様にもご臨席を賜り、感謝状を贈呈いたしました。

さて、本連合会では平成26年度から「イレブン・セブン運動」と銘打ち、午後11時から朝7時までには、子供たちにスマートフォン等を使用しないように呼びかけております。保護者の皆様には「与える保護者の覚悟、子供の使う責任」、「親は子供を助けるが、君を助けるのは自分」をテーマとし、ご家庭で話し合いを持ち、節度ある情報機器の使用を呼びかける運動を進めていきたいと考えております。

現在、情報化やグローバル化が進展し、絶え間ない技術革新により社会構造や雇用環境が大きく変化しております。また、急激に少子高齢化が進む成熟社会を迎えております。課題解決に向け、子供たち一人ひとりが「生きる力」を身につけるよう、支援していかねばなりません。「人生百年時代」と呼ばれる生涯にわたり学び続ける時代にあつて、本連合会が果たすべき役割も一層増していると考えます。今後、教育環境の向上や心豊かで創造性に満ちた子供たちを育てる活動に努めて参る所存でございます。

皆様におかれましては、今後とも富山県高等学校PTA連合会へのご指導、ご鞭撻のほどをお願い申し上げます。



教育警務委員長 亀山彰様



副知事 山崎康至様



深松会長 式辞



毛利元会長 謝辞



ご来賓の皆様



開式の辞
梶田隆一郎副会長



来賓紹介
小峰正文副会長



祝電披露
上埜慎也副会長



閉式の辞
才高人思副会長



進行
柴田昌尚高商PTA会長

創立70周年記念式典

令和元年10月29日(火) ホテルグランテラス富山において、富山県高等学校PTA連合会創立70周年記念大会が開催されました。

式典は午後1時、柴田昌尚高岡商業高等学校PTA会長の進行により、梶田隆一郎副会長の開式の辞ではじまり、国歌斉唱の後、深松会長が本会70年のあゆみと今後の決意を式辞で述べました。続いて富山県知事代理副知事山崎康至様、県議会議長代理県議会議員教育警務委員長亀山彰様からお祝いの言葉が寄せられました。

小峰正文副会長による来賓紹介の後、祝電披露、感謝状贈呈に移り、深松会長から高P連の発展に尽くされた歴代会長・副会長・理事等21名に対し、感謝状が手渡されました。

当日、受賞された方々

- | | | |
|-------|--------|-------|
| 毛利一朗氏 | 牧田和樹氏 | 石坂兼人氏 |
| 山崎均氏 | 大愛康洋氏 | 佐野行浩氏 |
| 江西照康氏 | 西能徹氏 | 林久嗣氏 |
| 尾上一彦氏 | 佐々木基安氏 | 岩田秀昭氏 |
| 加藤敏久氏 | 加藤一郎氏 | 松谷英真氏 |
| 城戸義則氏 | 織田伸一氏 | 粟原正嗣氏 |
| 芹川勝氏 | 清水好勝氏 | 広井睦氏 |

代表して、元会長毛利一朗氏から謝辞があり、才高人思副会長の閉式の辞をもって、滞りなく式典を終了しました。

富山県高P連

創立70周年に寄せて (三) 来賓祝辞



富山県知事 石井隆一

秋空に立山連峰が美しく映える季節を迎えておりますが、本日、富山県高等学校PTA連合会創立70周年記念式典並びに令和元年度富山県高等学校PTA大会・指導者研修会が挙行されますことを心からお祝い申し上げます。また、本日感謝状を受けられます皆様には、誠におめでとうございます。多年にわたるご功績に対しまして心から敬意を表しますとともに、今後とも、ご壮健で一層ご活躍いただきますようお願いいたします。

富山県高等学校PTA連合会には、昭和24年の創立以来、70年の長きにわたり、高等学校教育の充実・振興及び青少年の健全育成に多大なご貢献をいただいております。

とりわけ、平成12年度からの高校生による「さわやか運動」へのご協力に加え、平成26年度からは「イレブン・セブン運動」として、スマートフォン利用のルール作りを進められるなど、様々な活動に積極的に取り組んでいただいております。

ここに、深松会長をはじめ、歴代の会長、役員並びに会員の皆様のご熱意とご尽力に、心から敬意を表し、感謝申し上げます。

さて、県では、昨年3月に策定した新たな総合計画において、「人づくり」を重要政策に位置づけ、社会の変化に対応できる人材の育成や、これからの富山県や日本、さらにはグローバルな舞台でも活躍できる人づくりを進めております。今後とも、本県の未来を担う子供たちが健やかにたくましく成長できるように、教育行政の一層の充実に努めてまいります。

こうしたなか、県内全域から高等学校PTAの皆様が一堂に会し、今後のPTA活動の更なる活性化のため、研鑽を積まれますことは誠に意義深いものがあると存じます。

皆様には、このたびの70周年を契機として、今後とも、本県教育の振興と青少年の健全育成のため、より一層のご支援、ご尽力を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、本大会が盛り多いものとなりますとともに、富山県高等学校PTA連合会の限りないご発展と、本日ご列席の皆様のご健勝、ご活躍、ご多幸を心からお祈り申し上げます、お祝いの言葉といたします。



富山県議会議員 中川忠昭

富山県高等学校PTA連合会創立70周年式典が挙行されるにあたり、県議会を代表して、一言お祝いを申し上げます。

貴連合会におかれましては、昭和24年に設立されて以来、本県高等学校教育の充実発展のため、活力あるPTA活動に努められ、青少年の健全な育成と豊かな地域社会づくりに寄与されてこられました。

これもひとえに深松会長をはじめ、歴代の役員、会員並びに関係の皆様方の多大なるご尽力の賜であり、深く敬意を表しますとともに、心から感謝を申し上げます。

また、本日感謝状をお受けになる方々には、誠におめでとうございます。PTA活動への多大なご貢献に対しまして、心から敬意を表しますとともに、今後とも、より一層のご活躍を賜りますようお願い申し上げます。

さて、ご承知のとおり、近年、地域の連帯感の希薄化、スマートフォンの普及など青少年を取り巻く環境は、めまぐるしく変化しており、家庭・学校・地域が、それぞれの教育力の充実を図り、相互に連携・協力できる環境づくりを進めることが、高校生が望ましい自己実現を図る上で極めて重要となっております。

どうか、皆様方におかれましては、輝かしい伝統のうえに立つて、家庭・学校・地域を結ぶ架け橋として、青少年の健全な育成になお一層のご尽力を賜りますようお願い申し上げます。

県議会といたしまして、青少年が自らの可能性を發揮し、未来を切り拓いていけるよう、教育の充実に積極的に取り組む所存であります。

終わりに、富山県高等学校PTA連合会の今後ますますのご発展と、ご列席の皆様方のご健勝、ご多幸を祈念いたしました、お祝いの言葉といたします。



記念講演

演題 「高P連に想う」

「高P連時代を振り返って」

元全国高等学校PTA連合会会長
医療法人社団藤聖会・親和会理事長

講師 藤井 久文 氏



今ご紹介いただきました藤井でございます。今日はこういう機会を与えていただいて、ありがたいと思っています。

人生を振り返ることが大切ではないかと思っております。しばらく高P連のことを忘れておりましたけど、山崎前会長から高P連の大会の時に話をしてもらえないかと言われ、高P連で何をやっていたかを思い出し

ておりました。今回お招きいただいた深松会長にも大変感謝申し上げます。そして全高P連の牧田会長にも大変いま頑張っていると思います。

1 なぜPTAに入ったか

皆さんの大半は小中学校でPTA活動をされた後に高P連で活動されているかも知れませんが、私は高校になってからPTAの活動に参加しました。医者をしており、忙しにかまけて、それほど子どもに関わっていませんでした。

娘が高校に入学した時、高校時代の演劇部の先輩がPTA会長としており、「PTAくらい手伝えよ」と言われて「わかりました。できるかぎり」と返事をしました。頼まれると引き受ける人間で、まずはやってみるかと思っただけです。

PTAに入ると、急に高校時代を思い出しました。入学してすぐの中間試験の時に学校が火事で燃えたこと、演劇部の公演が近づくと、夜遅くまで先生方に隠れて練習したこと

等、急に高校生に戻ったような気持ちを味わい、自分が高校生の時どうであったか、その時親は何を考えたか、先生達はどんなふうにならないうかを見ていたのかを思い出しました。

小学3年生位の時に東京オリピックをカラーテレビで見ました。真紅のブレザーを着て一糸乱れず行進する日本選手の姿をすごいと思うと同時に、少し違うのではないかと考えたのです。自由に歩き回っても良いのではないか。高度成長期の日本では集団で頑張らないといけない、個性を大切にすることができなかった。ところが自分がPTA活動をする時代になると、個性がバラバラで孤独な子どもがいるのではないかと思い始めました。それで少しだけ真剣にPTAをやろうと思ったのです。

PTAが何か全然わからないままPTAに行きました。当時はお父さん達が頑張っておられ、意外に思いました。私自身も大会で発表しましたが、わからず、先生方から教えてもらいました。PTAの仕事を通して高校生の時の自分やその時の親の気持ち、先生の気持ち、家族の気持ちを学ぶ時間を過ごしたわけです。

2 PTAとは何か

さて、PTAとは何でしょうか。親と先生のアソシエーションですが、昭和21年にアメリカの第1次教育視察団が来日し、日本もアメリカのP

TAのように活動しなくてはいけないとして始まりました。昭和27年に日本PTA全国協議会、その直後に全国高等学校PTA協議会ができました。当時は1道9県の加盟で、富山は入っていないのですが、「学校関係の予算を確保する」、「教員の待遇を改善する」、「高P連を広げる」の3つが目的でした。子ども達の健全育成を願って研究、協議、討論し、将来の日本を背負っていく子ども達のために活動するという現在の目的とは違うわけです。

3 全国高P連会長

2001年に富山県高P連の会長になって全国の高P連の総会等に出席しましたが、前に並んだ執行部の人が本当にPTAかと思う位の年配ばかりで驚きました。

ところが、その翌年に順番で富山県が北信越の会長になり、自動的に全国の理事になります。理事になると「藤井さん、まとめ役で総務委員長をやつてよ」と専務になりました。いろんな調整をする中で、「中立な人が会長に必要だから、藤井さん、あんな会長になりなさいよ。あんなにしかないよ」と言われ、会長になるわけです。新しいこれからの全国高P連をつくらなさいといかないといふ気持ちでやるわけです。いつもついているなど思うのは、私を助けてくれる人がたくさんいるのです。富山県はもちろん、北信越

がいつも一緒に頑張ってくれました。北信越には押しの強い事務局長や優秀な事務の女性が支えてくれたので、私が会長でもうまくいったのです。

4 世界史未履修問題

そうこうしているうちに、「世界史未履修問題」が発覚しました。13年前に高P連大会の懇親会が始まった直後に岩手の会長から電話がかかり「藤井さん、えらいことになったよ」と。「未履修問題が富山県から出た。卒業できないと大変なことになる」という話です。ここで動かないと駄目だということで、当時の事務局長、教育委員会とも話をし、文科省に行きました。

学校週5日制で土日が休みになり、授業時間がとれない一方で、大学入試の成果を出さなくてはいけない。子ども達も先生も「ゆとり」といながらゆとりがない状況でした。富山の新聞がばつと出してしまい、これはえらいことになったと。文科省で「卒業できない子どもが全国でたくさん出ると困るので当面何とかして欲しい」という話をして、陳情書を出しました。

文科省の反応は遅いのですが、そこは富山県のすごいところで、教育委員会が報告書と今後の方針をすぐ作成しました。「こういうことが起きないようにしないといけない、今後はこういう方針で行く」という冊子をすぐに出しました。結果的に

文科省は70時間の補習をし、レポートを出すことで対応したという話があります。

5 木原先生との出会い

高P連の活動で木原先生というお医者さんに出会いました。エイズ予防、いわゆる免疫社会学の研究に取り組まれている方です。

彼女はエイズ予防のための性教育を始めました。「エイズはこういうものだから気をつけようね」では若い人のエイズは全然減らない。社会構造に問題がある事に気づき、エイズ研究から性教育、最終的に子ども達の幸せを願う教育、WYSH教育 (Well-being of Youth in Social Happiness) を立ち上げました。その初期段階で高P連と仕事をしました。

彼女と共同で「全国高校生生活意識調査」を2004年に始めましたが、1回目は高校生の性経験等が子ども達の家庭や学校での生活とどう関係するのか、別名「性のアンケート」になってしまった。子ども達の精神的な抑うつがあると性関係が普通の子どもの1.5倍から3倍多くなるという部分だけ強調され、週刊誌に沢山書かれ、高P連は何のアンケートを取っているのかと非難されました。木原先生は子ども達が家庭や学校等、社会でのつながりがなくなると、リスクのある行動につながるのではないかというのですが、もともと

エイズの研究者で、そこからスタートしたためそのような捉え方をされました。2年目は性経験もありませぬけど、不登校や自傷行為等が何と関係あるかというアンケートをしました。

結局、子ども達の様々な問題行動は、物は豊かになる一方で人とのつながりがなくなること、バーチャルな環境は複雑化するけれどリアルな環境での心の繋がりが失われていく中で、どうしたら良いか判らない、自信が持てない、寂しい、耐えられないということが根本にあつて、これをなんとかしなくてはいけないと思います。

最近思うのは、親子関係、先生との関係は木原先生がいうコネクトネスです。人とのつながりが大切だと思ふのですが、その時代によってツールという考え方が若干変わってきていると思います。私がPTAの活動をしている時は「携帯電話は良くない。学校に持つてくるな」でしたが、今は違います。暇な時にチャララ見えています。わからない時は調べます。百科事典は要りません。独自性はほとんどなく、少し危険を感じます。しかし、いろいろな意味での繋がること、精神的につながるものがこれからの若い人達の教育に必要なのだとすれば、これは良いツールではないかと思っています。

最近、大学では説明すると写真をパチパチ撮ります。ノートは取りま

せん。これが良いのかどうかわかりませんが、子ども達に対しての親、教師、友人のそれぞれの役割はあると思います。時代と共にこういうツール、生活習慣、文化を考える必要があると思います。もうすぐ5Gが始まると、勝手に判断しながらやっていかなければいけないと考えています。

6 これからのPTA活動

これからの時代を考え、PTAを作りかえることが必要ではないかと考えるのです。家庭、学校、地域社会のつながりを作ること。手段もスピードも変わる。その時に総合的判断、リテラシーを持ち、どのようにしていくか。

僕が高P連の会長だった時は、高校生は250万人と言われていました。今は認知症が400万人です。社会の中で、高校生より認知症の人数が増えました。認知症の人とコミュニケーションをとる一つの方法に「ユマニチュード」があります。その人に「自分は味方ですよ。あなたのことを考えていますよ」と示してから行動すると、認知症の人にも納得して動いてくれます。結局は「人間は繋がっている」という意識が一番大切ではないかと思えます。子ども達同様、高齢者も含め、人の繋がりを大切にする時代ではないでしょうか。

研究発表

「活力あるPTA活動を
目指して」

高P連70周年記念式典後、「活力あるPTA活動を目指して」をメインテーマに、4校のPTAから研究発表がありました。発表テーマと発表校PTAは、次のとおりです。

一 スマホへの思い

親と子のギャップ

滑川高校PTA

会長 高木 久斗

二 子どもたちの豊かな成長を

目指して

PTA専門委員会

活性化への取り組み

富山南高校PTA

会長 早勢 桂太郎

三 生徒指導とPTA

(本校の取り組みから)

高岡工芸高校PTA

会長 荻澤 裕美

四 PTA活動の参加向上を

目指して

富山工業高校

夜間定時制PTA

会長 前田 栄

いずれの発表も各学校の実態に応じたもので、「家庭」と「学校」の連携の大切さを再認識させられました。参加者からは、「自校のPTA組織を見直す参考になった」、「今の子どもたちの実態がよく分かった」、「親として子どもに気づきを与えることが大切だ」といった声が聞かれました。

発表後、荒木義雄高P連副会長(高岡高校長)の司会のもと、全体討議が行われました。各発表に関して、会場から8名の方が質問され、活発で充実した討議となりました。

その後、県教育委員会生涯学習・文化財室家庭成人教育班の辻ゆかり班長と富山中部高校の福島英晴校長のお二人から講評をいただきました。辻班長は、「滑川高校の『生徒と語る会』は、保護者アンケートをテーマ決めに生かしたり、追跡調査結果を次年度につなげるなどPDCAサイクルで展開された。活動が各家庭にフィードバックされ、聞き役を意識した親子の会話が広がる」とよい。

富山南高校は、専門委員会活性化に向けた改正を役員会で十分話し合い、ホームステイ受入れや研修講師の協力などPTAならではの社会資源を生かして活動された。既存の体制を変えらるご苦労もあつただろう。やってよかったと思える持続可能な活動を期待する。高岡工芸高校の会長さんが言われたように親として子供に関わる時間は残りわずかだが、どう

関わればよいかを保護者同士で語り合う機会を大切にされ、子供の成長を支援するPTA活動に期待する。富山工業高校夜間定時制では、少人数ならではの良さを生かして保護者同士が話しやすい雰囲気であらうしている。気軽に参加しやすい工夫をしながら無理のない活動を継続された。本日発表された4校の熱心な取り組み・発表に心から敬意を表したい。この発表を各学校に持ち帰り、今後のPTA活動に活かしてほしい。」と助言されました。

福島校長は、「滑川高校、高岡工芸高校の発表にスマホに関する話題があつた。スマホに関わる問題は、平成26年からイレブン・セブン運動で家庭での使用時間を適切にして、トラブルに巻き込まれないよう、富山県全体で取り組んでいる。心配なのは不適切な書き込みである。相手がどう感じるかを考えないでLINEなどで公表してしまう。ネットパトロールによる注意喚起、学校での啓発を今後も行つていかなければならない。富山南高校、富山工業高校の発表はPTA活動の活性化がテーマであつた。専門委員会の再始動や再編など、何よりも子供たちの豊かな成長のために何をすべきかをよく見極めて取り組んでいる。その姿勢はすべての県立学校が見習わなければならないと感じている。」とまとめられました。



前田会長 (富山工業)



荻澤会長 (高岡工芸)



早勢会長 (富山南)



高木会長 (滑川)

文部科学大臣・全国高P連

北信越高P連関係表彰者一覧 (平成22年度～令和元年度)

平成22年度

《文部科学大臣表彰》

富山北部高校PTA

《全国高P連会長表彰》

富山いずみ高校PTA

高岡南高校PTA

《個人表彰》

佐野 行浩 (前副会長)

松谷 英真 (前理事)

《北信越高P連》

大愛 康洋 (前副会長)

牧田 和樹 (前副会長)

八嶋祐太郎 (前副会長)

粟原 正嗣 (前事務局長)

平成23年度

《文部科学大臣表彰》

呉羽高校PTA

《全国高P連会長表彰》

魚津工業高校PTA

南砺福野高校PTA

《個人表彰》

大楠 匡子 (前副会長)

森 啓祐 (前理事)

《北信越高P連》

加藤 一博 (前副会長)

尾山 誠 (前理事)

澤田 淳一 (前理事)

出合 和仁 (前理事)

平成24年度

《文部科学大臣表彰》

泊高校PTA

《全国高P連会長表彰》

水橋高校PTA

高岡工芸高校PTA

《個人表彰》

高岡工芸高校PTA

《個人表彰》

千田 記也 (前副会長)

江西 照康 (前副会長)

《北信越高P連》

西能 徹 (前副会長)

齋藤富士夫 (前副会長)

村上 祐 (前理事)

川邊 一彦 (前理事)

平成25年度

《文部科学大臣表彰》

砺波工業高校PTA

《個人表彰》

毛利 一朗 (会長)

《全国高P連会長表彰》

《個人表彰》

滑川高校PTA

小矢部園芸高校PTA

《個人表彰》

北野 茂 (前副会長)

中田 正樹 (前副会長)

《北信越高P連》

開澤 憲三 (前会計監査)

旅 昭雄 (前会計監査)

松嶋 浩二 (前理事)

吉沢 昇 (前理事)

芹川 勝 (前事務局長)

平成26年度

《文部科学大臣表彰》

桜井高校PTA

《全国高P連会長表彰》

雄峰高校PTA

高岡高校PTA

《個人表彰》

林 久嗣 (前副会長)

榎田隆一郎 (前副会長)

毛利 一朗 (前会長)

《北信越高P連》

毛利 一朗 (前会長)

平成27年度

《文部科学大臣表彰》

八尾高校PTA

《全国高P連会長表彰》

新川みどり野高校PTA

南砺平高校PTA

《個人表彰》

織田 伸一 (前理事)

萩山 峰人 (前理事)

《北信越高P連》

石崎 清孝 (前副会長)

越田 喜規 (前副会長)

水上 幸俊 (前副会長)

澤田 正嗣 (前会計監査)

平成28年度

《文部科学大臣表彰》

南砺福光高校PTA

《全国高P連会長表彰》

富山高校PTA

伏木高校PTA

《個人表彰》

尾上 一彦 (前副会長)

野村 竹伸 (前会計監査)

牧田 和樹 (前会長)

《北信越高P連》

牧田 和樹 (前副会長)

河合 晃充 (前副会長)

高畑 寿太 (前副会長)

森 脩 (前会計監査)

藤井 一範 (前会計監査)

清水 好勝 (前事務局長)

平成29年度

《文部科学大臣表彰》

高岡工芸高校PTA

《全国高P連会長表彰》

《個人表彰》

雄山高校PTA

となみ野高校PTA

《個人表彰》

佐々木基安 (前副会長)

《北信越高P連》

橋爪健一郎 (前副会長)

木倉 雅彦 (前副会長)

河合 常晴 (前副会長)

藤井 義成 (前会計監査)

今井 英 (前会計監査)

平成30年度

《文部科学大臣表彰》

富山西高校PTA

《個人表彰》

牧田 和樹 (元会長)

石坂 兼人 (前会長)

《全国高P連会長表彰》

富山東高校PTA

高岡西高校PTA

《個人表彰》

柳田 毅 (前会計監査)

本田 利麻 (前会計監査)

石坂 兼人 (前会長)

《北信越高P連》

石坂 兼人 (前会長)

金田 栄悟 (前副会長)

森 雄一 (前副会長)

令和元年度

《文部科学大臣表彰》

上市高校PTA

《全国高P連会長表彰》

《個人表彰》

入善高校PTA

南砺福光高校PTA

《個人表彰》

岩田 秀昭 (前副会長)

山崎 均 (前会長)

《北信越高P連》

山崎 均 (前会長)

瀬島 史郎 (前副会長)

山本 英介 (前副会長)

御田伸太郎 (前会計監査)

海老 忠大 (前会計監査)

広井 睦 (前事務局長)

教育長陳情

令和元年11月13日、深松茂会長が、県庁で伍嶋二美男教育長に「令和2年度教育関係予算措置その他に関する陳情書」を手渡し、次の8項目に関して陳情しました。

- 1 県高等学校PTA指導者研修事業の振興について
- 2 時代の進展に即応した教育改革への支援について
- 3 生徒生活指導の充実について
- 4 時代の進展に即応した学校づくりの推進について
- 5 学校運営費や旅費等の確保等について
- 6 定時制・通信制教育の振興について



7 特別支援教育の振興と教育環境の整備充実について

伍嶋教育長からは、「財政状況は厳しいが、人を育てることが、これからの富山県の発展に何よりも大事だと思っている。今回の要望も含めて、しっかりと取り組んでいきたい。」との回答をいただきました。

8 高等教育機関の拡充について

伍嶋教育長からは、「財政状況は厳しいが、人を育てることが、これからの富山県の発展に何よりも大事だと思っている。今回の要望も含めて、しっかりと取り組んでいきたい。」との回答をいただきました。

知事要望

県高P連では令和2年1月22日、深松茂会長と5名の副会長が県庁に石井隆一知事を訪ね、次の12項目について、新年度教育関係予算の充実を要望しました。

1 時代の進展に即応した学校づくりの推進

- (1) 県立学校における学習環境充実への支援
 - (2) 空調設備等の整備
 - (3) ICT教育充実への支援
 - (4) 魅力ある学校づくり推進への支援
 - (5) 未来を拓く人材育成への支援
 - (6) 教育制度改革等の対応への支援
- ### 2 特別支援教育の充実
- (1) 高等学校における特別支援教育の推進

(2) 特別支援学校高等部等における職業教育の充実

3 高校生指導等の充実

- (1) 不登校やいじめ等への対応
- (2) 携帯端末やSNS等に係る諸問題への対応

4 教員の資質向上

- (1) 優れた教員確保への対策
 - (2) 教員研修等の充実・支援
- これに対して、石井知事は、「再編統合校の施設整備、特別教室の空調整備を進めていく。高校教育は大変大事なので、教育県富山の名のもと、よき伝統をしっかりと維持して、同時にICT教育等いろいろな面で新しい時代が来ているので、しっかりと対応して、優れた健やかでたくましい人材が出てくるようにしたい。」との回答をいただきました。



令和元年度の主な事業

- 4月26日 平成30年度第4回理事会
- 5月16日 第1回幹事会
- 6月4日 定期大会
- 第1回企画委員会兼理事会
- 高P連創立70周年記念事業実行委員会
- 6月20日 第1回教育向上委員会
- 6月中下旬 地区PTA指導者研修会
- 7月4・5日 北信越地区高P連研究大会
- 長野大会
- 7月20日 第48回富山県社会教育大会
- 7月23日 第2回企画委員会
- 8月2日 県P連・高P連教育懇談会
- 8月22・23日 全国高P連大会京都大会
- 9月17日 第3回企画委員会
- 第2回理事会
- 高P連創立70周年記念事業実行委員会
- 9月27日 第2回幹事会
- 10月10日 第2回教育向上委員会
- 10月29日 高P連創立70周年記念式典
- 県高P大会・指導者研修会
- 教育長陳情
- 11月13日 第4回企画委員会
- 12月10日 教育関係予算の知事要望
- 1月22日 第5回企画委員会
- 2月20日 第3回理事会

編集後記

富山県高等学校PTA連合会創立70周年記念事業の一つとして、ここに第122号(70周年記念号)を発刊し、会員の皆様にお届けする運びとなりました。70周年記念式典・大会では、多くの会員の皆様にお力添えをいただき、改めて感謝申し上げます。深松会長の式辞にもあったとおり、「人生百年時代」と呼ばれる現在の学びの場を大切に、会員相互の交流を活発にして、子どもたちの将来に向けて、課題解決に力を注いでいきたいと思っております。今後とも、ご協力よろしくお願いたします。
(事務局長 神田 聡)